

【概要】

平成30年度（2018年度）児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（北海道）【確定値】

※本調査は、平成30年度（2018年度）間の北海道の公立学校における暴力行為、いじめ、不登校、中途退学の状況を令和元年度（2019年度）に調査し、公表するものです。また、本数値には、札幌市立学校も含んでいます。

■基本となる学校数及び児童生徒数

	公立学校総数			在籍児童生徒数		
	平成29年度	平成30年度	前年度比	平成29年度	平成30年度	前年度比
小学校	1,057校	1,043校	▲14校	243,878人	242,021人	▲1,857人
中学校	596校	584校	▲12校	127,570人	123,605人	▲3,965人
高等学校	234校	231校	▲3校	100,535人	98,456人	▲2,079人
小・中・高等学校の計	1,887校	1,858校	▲29校	471,983人	464,082人	▲7,901人
特別支援学校	70校	70校	0校	5,682人	5,683人	1人
合計	1,957校	1,928校	▲29校	477,665人	469,765人	▲7,900人

※平成30年5月1日現在の数値である。

ただし、高等学校在籍生徒数には、高等学校通信制課程の在籍者数(29年度は2,928人、30年度は2,786人)も計上されている。

※いじめにおける高等学校の学校総数は、併置校を全日制、定時制、通信制それぞれを1校で計上し、263校となる。

■結果の概要

1 公立小・中学校、高等学校の暴力行為の発生件数

	平成29年度		平成30年度		前年度比	
	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数
小学校	130件	0.5	237件	1.0	107件	0.5
中学校	350件	2.7	355件	2.9	5件	0.2
高等学校	186件	1.9	212件	2.2	26件	0.3
合計	666件	1.4	804件	1.7	138件	0.3

2 公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめの認知件数

	平成29年度		平成30年度		前年度比	
	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数
小学校	9,256件	38.0	15,950件	65.9	6,694件	27.9
中学校	2,319件	18.2	3,204件	25.9	885件	7.7
高等学校	518件	5.2	799件	8.1	281件	2.9
特別支援学校	36件	6.3	133件	23.4	97件	17.1
合計	12,129件	25.4	20,086件	42.8	7,957件	17.4

3 公立小・中学校の不登校児童生徒数

	平成29年度		平成30年度		前年度比	
	不登校児童生徒数	1,000人当たり	不登校児童生徒数	1,000人当たり	不登校児童生徒数	1,000人当たり
小学校	1,196人	4.9	1,539人	6.4	343人	1.5
中学校	4,370人	34.3	4,881人	39.5	511人	5.2
合計	5,566人	15.0	6,420人	17.6	854人	2.6

4 公立高等学校の不登校生徒数（通信制高校の在籍者を除く。）

	平成29年度	平成30年度	前年度比
不登校生徒数	792人	825人	33人
1,000人当たり	8.1	8.6	0.5

5 公立高等学校の中途退学者数

	平成29年度	平成30年度	前年度比
中途退学者数	1,491人	1,521人	30人
中途退学率	1.5%	1.6%	0.1%

公立小・中学校、高等学校の暴力行為

1 暴力行為の発生件数の推移

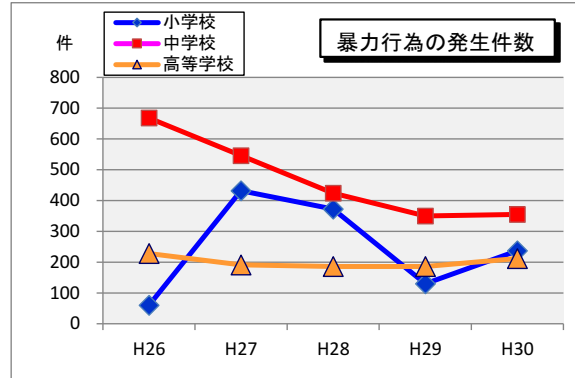
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
小学校	60	432	372	130	237
中学校	668	546	424	350	355
高等学校	228	191	186	186	212
計	956	1,169	982	666	804

<経年変化>

中学校においては平成24年度から、小学校においては平成28年度から減少傾向であり、高等学校においては、平成27年度から大きな変化は見られなかったが、平成30年度は、全ての学校種で増加した。

<前年度との比較>

- 小学校 ～前年度に比べ、107件増加している。
- 中学校 ～前年度に比べ、5件増加している。
- 高等学校～前年度に比べ、26件増加している。
- 全体 ～前年度に比べ、138件増加している。



【暴力行為の定義】「暴力行為」を「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」として調査。本調査においては、当該暴力行為によってけががあるかないかといったことや、けがによる病院の診断書、被害者による警察への被害届の有無などにかかわらず、暴力行為に該当するものを全て対象とすることとしている。

2 学校種別暴力行為の発生学校数及び発生件数

		平成30年度			平成29年度		
		発生学校数		発生件数	発生学校数		発生件数
		学校数	発生率		学校数	発生率	
小学校	学校管理下	42校	4.0%	217件	35校	3.3%	115件
	学校管理下以外	10校	1.0%	20件	6校	0.6%	15件
	小計	—	—	237件	—	—	130件
中学校	学校管理下	93校	15.9%	310件	81校	13.6%	324件
	学校管理下以外	30校	5.1%	45件	23校	3.9%	26件
	小計	—	—	355件	—	—	350件
高等学校	学校管理下	73校	31.6%	195件	69校	29.5%	171件
	学校管理下以外	15校	6.5%	17件	12校	5.1%	15件
	小計	—	—	212件	—	—	186件
合計	学校管理下	208校	11.2%	722件	185校	9.8%	610件
	学校管理下以外	55校	3.0%	82件	41校	2.2%	56件
	小計	—	—	804件	—	—	666件

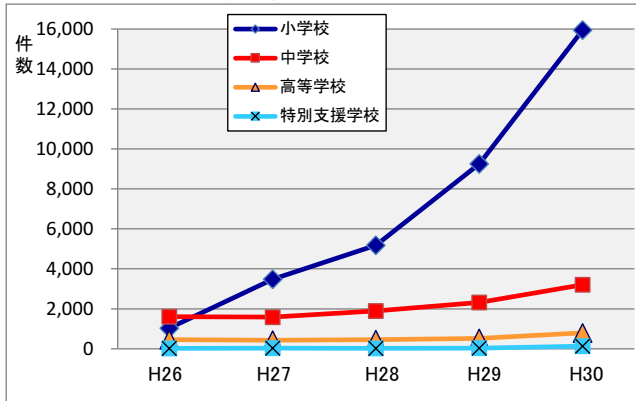
※発生率＝（発生学校数／公立学校総数）×100

3 暴力行為の種別発生学校数及び発生件数

		平成30年度		平成29年度	
		発生学校数	発生件数	発生学校数	発生件数
対教師暴力	小学校	21校	90件	15校	18件
	中学校	30校	44件	22校	35件
	高等学校	13校	21件	16校	20件
	合計	64校	155件	53校	73件
生徒間暴力	小学校	32校	107件	26校	91件
	中学校	88校	206件	69校	203件
	高等学校	66校	127件	70校	127件
	合計	186校	440件	165校	421件
対人暴力	小学校	1校	1件	2校	2件
	中学校	18校	19件	12校	10件
	高等学校	4校	6件	3校	4件
	合計	23校	26件	17校	16件
器物損壊	小学校	18校	39件	10校	19件
	中学校	48校	86件	30校	102件
	高等学校	38校	58件	21校	35件
	合計	104校	183件	61校	156件

公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめ

1 いじめの認知件数の推移



	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
小学校	1,036 4.1	3,486 13.9	5,185 21.0	9,256 38.0	15,950 65.9
中学校	1,607 12.1	1,588 12.0	1,899 14.5	2,319 18.2	3,204 25.9
高等学校	464 4.3	429 4.1	456 4.4	518 5.2	799 8.1
特別支援学校	25 4.8	34 6.3	22 4.0	36 6.3	133 23.4
計	3,132 6.2	5,537 11.2	7,562 15.6	12,129 25.4	20,086 42.8

※ 上段は認知件数、下段は1,000人当たりの認知件数

※本調査におけるいじめの定義

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立つて行うものとする。

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが重要なものや、児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。

これらについては、教育的配慮や被害者の意向への配慮の上で、早期に警察に相談・通報し、警察と連携した対応を行うことが必要である。

<経年変化>

いじめの認知件数は、平成27年度から大幅に増加している。校種別では、小学校及び特別支援学校の増加が顕著であるが、中学校及び高等学校についても前年度に比べ増加した。

<前年度との比較>

- 小学校 ~前年度に比べ、6694件増加している。
- 中学校 ~前年度に比べ、885件増加している。
- 高等学校 ~前年度に比べ、281件増加している。
- 特別支援学校 ~前年度に比べ、97件増加している。
- 全体 ~前年度に比べ、7957件増加している。

2 学校種別いじめの認知学校数

	認知学校数			
	学校数		認知率	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
小学校	608校	538校	58.3%	50.9%
中学校	379校	349校	64.9%	58.6%
高等学校	160校	147校	60.8%	55.1%
特別支援学校	23校	18校	32.9%	25.7%

※ 認知率 = (認知学校数 / 公立学校総数) × 100

3 いじめの解消状況

	いじめが解消しているもの(解消率)	
	平成30年度	平成29年度
小学校	96.9%	97.3%
中学校	96.7%	93.4%
高等学校	94.2%	98.1%
特別支援学校	94.7%	91.7%
計	96.8%	96.5%

4 いじめ発見のきっかけ (12項目から一つの項目)

	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成30年度		平成29年度	
小学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	81.2%	アンケート調査など学校の取組により発見	78.4%
	②	本人からの訴え	8.3%	本人からの訴え	11.2%
	③	学級担任が発見	6.2%	学級担任が発見	5.7%
	④	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	2.7%	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	3.0%
	⑤	児童生徒(本人を除く)からの情報	0.9%	児童生徒(本人を除く)からの情報	0.8%
	⑥	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	0.3%	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	0.4%
	⑦	学級担任以外の教職員が発見	0.2%	学級担任以外の教職員が発見	0.3%
	⑧	養護教諭が発見	0.1%	養護教諭が発見	0.1%
	⑨	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.04%	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.1%
	⑩	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.01%	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.02%
	⑪	その他(匿名による投書など)	0.01%	その他(匿名による投書など)	0.02%
	⑫	地域の住民からの情報	0.01%	地域の住民からの情報	0.0%
中学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	64.6%	アンケート調査など学校の取組により発見	61.1%
	②	本人からの訴え	16.3%	本人からの訴え	19.9%
	③	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	6.6%	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	7.3%
	④	学級担任が発見	6.1%	学級担任が発見	5.9%
	⑤	児童生徒(本人を除く)からの情報	3.0%	児童生徒(本人を除く)からの情報	2.9%
	⑥	学級担任以外の教職員が発見	2.0%	学級担任以外の教職員が発見	1.1%
	⑦	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	0.8%	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	1.1%
	⑧	養護教諭が発見	0.4%	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.3%
	⑨	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.1%	養護教諭が発見	0.2%
	⑩	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.1%	地域の住民からの情報	0.1%
	⑪	地域の住民からの情報	0.0%	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.1%
	⑫	その他(匿名による投書など)	0.0%	その他(匿名による投書など)	0.04%

	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成30年度		平成29年度	
高等学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	68.7%	アンケート調査など学校の取組により発見	68.5%
	②	本人からの訴え	18.4%	本人からの訴え	13.7%
	③	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	5.1%	学級担任が発見	8.9%
	④	学級担任が発見	4.0%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	5.4%
	⑤	児童生徒（本人を除く）からの情報	1.9%	学級担任以外の教職員が発見	1.5%
	⑥	学級担任以外の教職員が発見	1.1%	児童生徒（本人を除く）からの情報	1.0%
	⑦	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.3%	養護教諭が発見	0.6%
	⑦	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.3%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.2%
	⑨	養護教諭が発見	0.1%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.2%
	⑨	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.1%	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.0%
		地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%
	その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%	
特別支援学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	56.4%	アンケート調査など学校の取組により発見	61.1%
	②	本人からの訴え	21.8%	本人からの訴え	19.4%
	③	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	9.8%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	8.3%
	④	学級担任が発見	6.8%	学級担任が発見	5.6%
	⑤	児童生徒（本人を除く）からの情報	3.0%	学級担任以外の教職員が発見	2.8%
	⑥	学級担任以外の教職員が発見	2.3%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	2.8%
		養護教諭が発見	0.0%	養護教諭が発見	0.0%
		スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.0%	スクールカウンセラー等の相談員が発見	0.0%
		保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%	児童生徒（本人を除く）からの情報	0.0%
		地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%
		学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%
	その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%	

5 いじめの態様（9項目から複数選択）

	順位	いじめの態様			
		平成30年度		平成29年度	
小学校	①	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	62.1%	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	62.1%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	28.8%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	30.1%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる。	21.3%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	21.0%
	④	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	8.1%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	8.2%
	⑤	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3.2%	その他	3.8%
	⑥	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	2.9%	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	3.3%
	⑦	その他	2.3%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.6%
	⑧	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	1.0%	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	1.3%
	⑨	金品をたかられる。	0.2%	金品をたかられる。	0.2%
中学校	①	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	73.3%	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	74.3%
	②	仲間はずれ、集団による無視をされる。	14.3%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	16.3%
	③	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	13.1%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	13.4%
	④	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	10.3%	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	8.7%
	⑤	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	6.0%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	8.0%
	⑥	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3.2%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	2.9%
	⑦	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	2.2%	その他	1.6%
	⑧	その他	1.3%	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	1.3%
	⑨	金品をたかられる。	0.3%	金品をたかられる。	0.2%
高等学校	①	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	67.0%	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	70.1%
	②	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	22.2%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	18.1%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる。	15.8%	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	16.4%
	④	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	9.0%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	7.3%
	⑤	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	4.8%	その他	6.2%
	⑥	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3.8%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	4.4%
	⑥	その他	3.8%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3.9%
	⑧	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	2.1%	金品をたかられる。	1.5%
	⑨	金品をたかられる。	0.4%	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	1.2%
特別支援学校	①	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	67.7%	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	63.9%
	②	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	18.8%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	36.1%
	③	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	9.8%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	13.9%
	③	その他	9.8%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	8.3%
	⑤	仲間はずれ、集団による無視をされる。	7.5%	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	8.3%
	⑥	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3.8%	仲間はずれ、集団による無視をされる。	5.6%
	⑦	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	3.0%	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。	5.6%
	⑧	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	2.3%	金品をたかられる。	5.6%
	⑨	金品をたかられる。	1.5%	その他	5.6%

公立小・中学校の不登校

1 公立小・中学校における理由別長期欠席者数（上段）と1,000人当たりの理由別長期欠席者数（下段）

	平成30年度						平成29年度					
	不登校	うち90日以上欠席	経済的理由	病気	その他	計	不登校	うち90日以上欠席	経済的理由	病気	その他	計
小学校	1,539	840	0	839	326	2,704	1,196	708	0	583	338	2,117
1,000人当たり	6.4	3.5	0.0	3.5	1.3	11.2	4.9	2.9	0.0	2.4	1.4	8.7
中学校	4,881	3,314	0	903	124	5,908	4,370	3,060	0	783	221	5,374
1,000人当たり	39.5	26.8	0.0	7.3	1.0	47.8	34.3	24.0	0.0	6.1	1.7	42.1
計	6,420	4,154	0	1,742	450	8,612	5,566	3,768	0	1,366	559	7,491
1,000人当たり	17.6	11.4	0.0	4.8	1.2	23.6	15.0	10.1	0.0	3.7	1.5	20.2

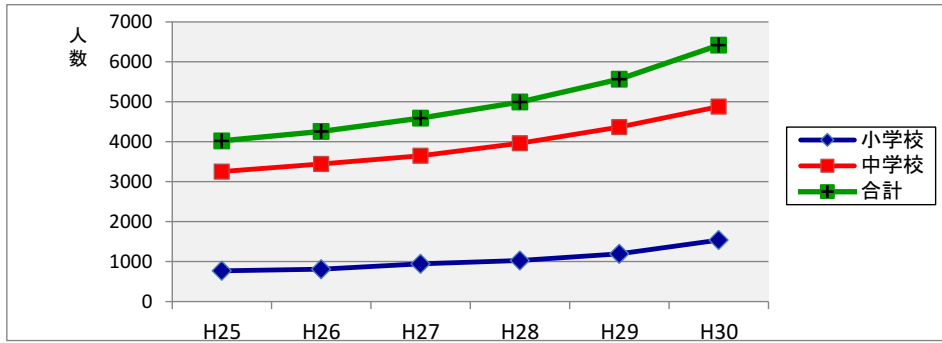
※年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒数を理由別に調査。

- 小学校 ~昨年度に比べ、343人増加（1,196→1,539）している。
- 中学校 ~昨年度に比べ、511人増加（4,370→4,881）している。
- 全体 ~昨年度に比べ、854人増加（5,566→6,420）している。

2 不登校の経年変化

(1) 不登校の状況

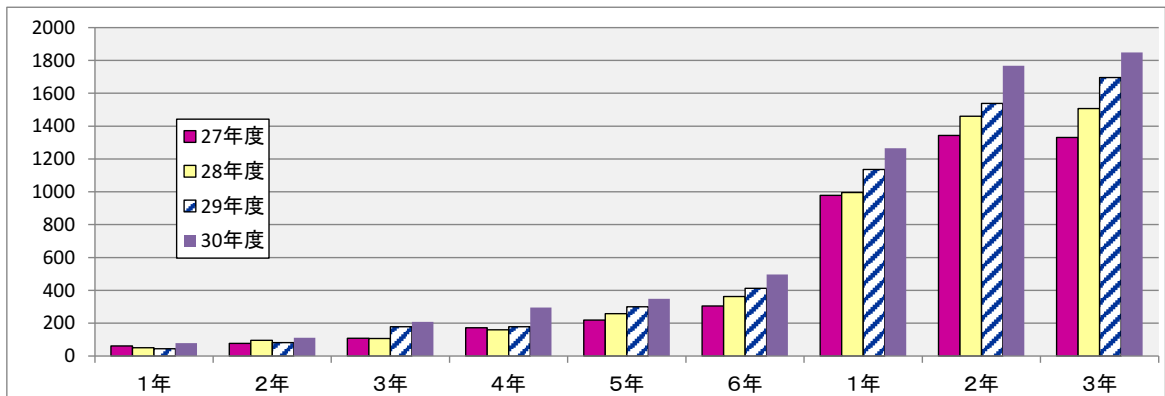
① 年度間に通算30日以上欠席した児童生徒のうち、不登校を理由とする児童生徒数の推移



② 不登校児童生徒数（上段）と1,000人当たりの不登校児童生徒数（下段）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
小学校	770	812	942	1,031	1,196	1,539
1,000人当たり	3.0	3.2	3.8	4.2	4.9	6.4
中学校	3,255	3,447	3,653	3,964	4,370	4,881
1,000人当たり	24.2	26.0	27.7	30.3	34.3	39.5
合計	4,025	4,259	4,595	4,995	5,566	6,420
1,000人当たり	10.2	11.0	12.0	13.2	15.0	17.6

(2) 過去4年間の学年別不登校児童生徒数の推移



学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
27年度	61	77	108	172	219	305	978	1,344	1,331
28年度	50	95	106	159	258	363	996	1,461	1,507
29年度	45	81	179	179	300	412	1,136	1,538	1,696
30年度	78	112	208	296	349	496	1,265	1,768	1,848

3 不登校の要因

(1) 公立小学校

分類	区分	(a) 分類別 児童数	学校に係る状況							家庭に係る 状況	左記に該当 なし	
			い じ め	ぐ 友 い る 人 じ め 問 題 係 を 除 め く	題 係 教 を 職 員 と の 問 題	学 業 の 不 振	安 進 路 に 係 る 不	不 部 活 動 等 活 動 の	題 等 学 を 校 の ま わ り			不 学 入 学 、 学 級 編 入
			「学校における人間関係」に課題を抱えている。	265	0 0.0%	160 60.4%	53 20.0%	38 14.3%	3 1.1%			0 0.0%
		17.2%	— 46.1%	— 65.4%	— 16.5%	— 15.8%	— 0.0%	— 23.5%	— 11.6%	— 8.4%	— 6.8%	
「あそび・非行」の傾向がある。	12	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	11 91.7%	2 16.7%	
		0.8%	— 0.3%	— 0.0%	— 0.0%	— 0.0%	— 0.0%	— 5.9%	— 0.0%	— 1.2%	— 1.4%	
「無気力」の傾向がある。	372	0 0.0%	30 8.1%	5 1.3%	81 21.8%	5 1.3%	0 0.0%	4 1.1%	23 6.2%	283 76.1%	21 5.6%	
		24.2%	— 8.6%	— 6.2%	— 35.1%	— 26.3%	— 0.0%	— 23.5%	— 20.5%	— 30.4%	— 14.4%	
「不安」の傾向がある。	513	0 0.0%	144 28.1%	21 4.1%	87 17.0%	11 2.1%	1 0.2%	8 1.6%	63 12.3%	265 51.7%	48 9.4%	
		33.3%	— 41.5%	— 25.9%	— 37.7%	— 57.9%	— 100.0%	— 47.1%	— 56.3%	— 28.4%	— 32.9%	
「その他」	377	0 0.0%	12 3.2%	2 0.5%	25 6.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 3.4%	295 78.2%	65 17.2%	
		24.5%	— 3.5%	— 2.5%	— 10.8%	— 0.0%	— 0.0%	— 0.0%	— 11.6%	— 31.7%	— 44.5%	
計(b)	1,539	0 0.0%	347 22.5%	81 5.3%	231 15.0%	19 1.2%	1 0.1%	17 1.1%	112 7.3%	932 60.6%	146 9.5%	
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

(注1) 「分類」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因を一つ選択。

(注2) 「区分」については、複数回答可。「分類」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、「左記に該当なし」を選択する。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は、各区分における「分類別児童生徒数(a)」に対する割合。下段は、各区分における区分の「計(b)」に対する割合。

(2) 公立中学校

分類	区分	(a) 分類別 生徒数	学校に係る状況							家庭に係る 状況	左記に該当 なし	
			い じ め	ぐ 友 い る 人 じ め 問 題 係 を 除 め く	題 係 教 を 職 員 と の 問 題	学 業 の 不 振	安 進 路 に 係 る 不	不 部 活 動 等 活 動 の	題 等 学 を 校 の ま わ り			不 学 入 学 、 学 級 編 入
			「学校における人間関係」に課題を抱えている。	1,112	4 0.4%	795 71.5%	79 7.1%	155 13.9%	27 2.4%			45 4.0%
		22.8%	100.0%	51.3%	58.5%	12.7%	11.0%	50.0%	13.4%	19.2%	9.5%	3.3%
「あそび・非行」の傾向がある。	175	0 0.0%	20 11.4%	4 2.3%	70 40.0%	2 1.1%	2 1.1%	30 17.1%	1 0.6%	75 42.9%	24 13.7%	
		3.6%	0.0%	1.3%	3.0%	5.8%	0.8%	2.2%	36.6%	0.2%	5.5%	3.2%
「無気力」の傾向がある。	1,227	0 0.0%	166 13.5%	10 0.8%	502 40.9%	48 3.9%	14 1.1%	16 1.3%	74 6.0%	501 40.8%	147 12.0%	
		25.1%	0.0%	10.7%	7.4%	41.3%	19.6%	15.6%	19.5%	18.4%	36.7%	19.5%
「不安」の傾向がある。	1,488	0 0.0%	478 32.1%	30 2.0%	387 26.0%	142 9.5%	23 1.5%	10 0.7%	197 13.2%	318 21.4%	210 14.1%	
		30.5%	0.0%	30.9%	22.2%	31.8%	58.0%	25.6%	12.2%	49.0%	23.3%	27.8%
「その他」	879	0 0.0%	90 10.2%	12 1.4%	102 11.6%	26 3.0%	6 0.7%	15 1.7%	53 6.0%	341 38.8%	349 39.7%	
		18.0%	0.0%	5.8%	8.9%	8.4%	10.6%	6.7%	18.3%	13.2%	25.0%	46.2%
計(b)	4,881	4 0.1%	1,549 31.7%	135 2.8%	1,216 24.9%	245 5.0%	90 1.8%	82 1.7%	402 8.2%	1,364 27.9%	755 15.5%	
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

【割合の計算例】 中段： $\frac{349}{879} \times 100 = 39.7\%$

下段： $\frac{349}{755} \times 100 = 46.2\%$

(3) 公立小・中学校合計

分類	区分	(a) 分類別児童生徒数	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし	
			いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除 く	題係教 を職 員と の関 関	学業 の 不振	安進 路に 係る 不	不部 適活 動等 への	クラ ブ活 動の ま	題等 を校 をの ぐる きま わり			不学 、学 、学 級転 編の 入
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	1,377	4	955	132	193	30	45	15	90	207	35		
		0.3%	69.4%	9.6%	14.0%	2.2%	3.3%	1.1%	6.5%	15.0%	2.5%		
		21.4%	100.0%	50.4%	61.1%	13.3%	11.4%	49.5%	15.2%	17.5%	9.0%	3.9%	
「あそび・非行」の傾向がある。	187	0	21	4	70	2	2	31	1	86	26		
		0.0%	11.2%	2.1%	37.4%	1.1%	1.1%	16.6%	0.5%	46.0%	13.9%		
		2.9%	0.0%	1.1%	1.9%	4.8%	0.8%	2.2%	31.3%	0.2%	3.7%	2.9%	
「無気力」の傾向がある。	1,599	0	196	15	583	53	14	20	97	784	168		
		0.0%	12.3%	0.9%	36.5%	3.3%	0.9%	1.3%	6.1%	49.0%	10.5%		
		24.9%	0.0%	10.3%	6.9%	40.3%	20.1%	15.4%	20.2%	18.9%	34.1%	18.6%	
「不安」の傾向がある。	2,001	0	622	51	474	153	24	18	260	583	258		
		0.0%	31.1%	2.5%	23.7%	7.6%	1.2%	0.9%	13.0%	29.1%	12.9%		
		31.2%	0.0%	32.8%	23.6%	32.8%	58.0%	26.4%	18.2%	50.6%	25.4%	28.6%	
「その他」	1,256	0	102	14	127	26	6	15	66	636	414		
		0.0%	8.1%	1.1%	10.1%	2.1%	0.5%	1.2%	5.3%	50.6%	33.0%		
		19.6%	0.0%	5.4%	6.5%	8.8%	9.8%	6.6%	15.2%	12.8%	27.7%	45.9%	
計(b)	6,420	4	1,896	216	1,447	264	91	99	514	2,296	901		
		—	0.1%	29.5%	3.4%	22.5%	4.1%	1.4%	1.5%	8.0%	35.8%	14.0%	

4 不登校児童生徒への指導結果状況

	小学校				中学校				計			
	人数		不登校児童に対する比率		人数		不登校生徒に対する比率		人数		不登校児童生徒に対する比率	
	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	458	335	29.8%	28.0%	1,196	1,032	24.5%	23.6%	1,654	1,367	25.8%	24.6%
指導中の児童生徒	1,081	861	70.2%	72.0%	3,685	3,338	75.5%	76.4%	4,766	4,199	74.2%	75.4%
うち登校に至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	334	240	21.7%	20.1%	937	855	19.2%	19.6%	1,271	1,095	19.8%	19.7%
計	1,539	1,196			4,881	4,370			6,420	5,566		

公立高等学校の不登校

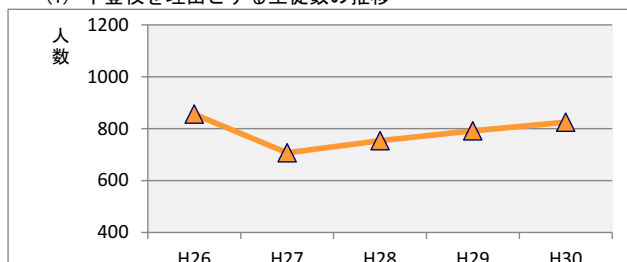
1 公立高等学校における理由別長期欠席者数（上段）と1,000人当たりの理由別長期欠席者数（下段）

年度	在籍数（人）	不登校	うち90日以上欠席	経済的理由	病気	その他	計
平成30年度	95,670	825	274	15	365	49	1,254
	(1,000人当たり)	8.6	2.9	0.2	3.8	0.5	13.1
平成29年度	97,607	792	281	13	317	92	1,214
	(1,000人当たり)	8.1	2.9	0.1	3.2	0.9	12.4

※年間30日以上欠席した者

2 公立高等学校における不登校の状況

(1) 不登校を理由とする生徒数の推移



<前年度との比較>

○人数～前年度に比べ、33人増加している。
○1,000人当たり～前年度に比べ、0.5ポイント増加している。

【内訳】

全日制 447人（4.9）（前年度382人（4.1））
定時制 378人（97.0）（前年度410人（102.4））

(2) 不登校生徒数（上段）と1,000人当たりの不登校生徒数（下段）

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
不登校生徒数	856	707	754	792	825
1,000人当たり	8.2	6.9	7.6	8.1	8.6

※年間30日以上欠席した者のうち、主たる理由が「不登校」の者の数

3 学年別不登校生徒数

	不登校生徒数					
	平成30年度			平成29年度		
	人数	1,000人当たり	構成比	人数	1,000人当たり	構成比
第1学年	154	6.7	18.7%	152	6.4	19.2%
第2学年	110	4.8	13.3%	109	4.6	13.8%
第3学年	74	3.2	9.0%	47	2.0	5.9%
第4学年	6	15.3	0.7%	5	11.2	0.6%
単位制	481	18.5	58.3%	479	18.3	60.5%

4 不登校の要因

(1) 全日制と定時制の合計

区分 分類	分類別 生徒数 (a)	学校に係る状況								家庭に係る 状況	左記に該当 なし
		いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除め く	題係教 を職 めぐ との 問関	学業 の 不振	安進 路に 係る 不	不部ク 適活ラ 応動ブ 等活動 への	題等学 を校 めめ ぐき るま 問り	不学入 適、 応進 級転 時編 の入		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	225	0	104	4	22	4	29	2	26	6	38
	27.3%	—	68.4%	100.0%	26.5%	8.7%	96.7%	25.0%	11.3%	5.5%	18.8%
「あそび・非行」の傾向がある。	33	0	4	0	3	2	0	3	0	7	16
	4.0%	—	2.6%	0.0%	3.6%	4.3%	0.0%	37.5%	0.0%	6.4%	7.9%
「無気力」の傾向がある。	172	0	9	0	13	5	1	2	82	25	39
	20.8%	—	5.9%	0.0%	15.7%	10.9%	3.3%	25.0%	35.5%	22.7%	19.3%
「不安」の傾向がある。	280	0	34	0	43	33	0	1	108	55	29
	33.9%	—	22.4%	0.0%	51.8%	71.7%	0.0%	12.5%	46.8%	50.0%	14.4%
「その他」	115	0	1	0	2	2	0	0	15	17	80
	13.9%	—	0.7%	0.0%	2.4%	4.3%	0.0%	0.0%	6.5%	15.5%	39.6%
計(b)	825	0	152	4	83	46	30	8	231	110	202
	—	0.0%	18.4%	0.5%	10.1%	5.6%	3.6%	1.0%	28.0%	13.3%	24.5%

(注1) 「分類」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した生徒全員につき、主たる要因を一つ選択。

(注2) 「区分」については、複数回答可。「分類」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、「左記に該当なし」を選択する。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は「分類別生徒数(a)」に対する割合。下段は「計(b)」に対する割合。

(2) 全日制

区分 分類	分類別生徒数 (a)	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
		いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除め く	題係教 を職 員と るの 間関	学業 の不振	安進 路に 係る 不	不部ク 適活ラ 応動プ 等活動 への	題等学 を校の めぐる ま問り	不学入 適進 応進 級転 時の入		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	133	0	90	4	22	4	1	2	10	6	4
	29.8%	0.0%	67.7%	3.0%	16.5%	3.0%	0.8%	1.5%	7.5%	4.5%	3.0%
「あそび・非行」の傾向がある。	18	0	3	0	3	2	0	3	0	3	6
	4.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	11.1%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	33.3%
「無気力」の傾向がある。	81	0	9	0	8	5	1	0	11	17	33
	18.1%	0.0%	11.1%	0.0%	9.9%	6.2%	1.2%	0.0%	13.6%	21.0%	40.7%
「不安」の傾向がある。	164	0	31	0	41	32	0	1	19	36	26
	36.7%	0.0%	18.9%	0.0%	25.0%	19.5%	0.0%	0.6%	11.6%	22.0%	15.9%
「その他」	51	0	1	0	2	2	0	0	5	9	34
	11.4%	0.0%	2.0%	0.0%	3.9%	3.9%	0.0%	0.0%	9.8%	17.6%	66.7%
計(b)	447	0	134	4	76	45	2	6	45	71	103
	—	0.0%	30.0%	0.9%	17.0%	10.1%	0.4%	1.3%	10.1%	15.9%	23.0%

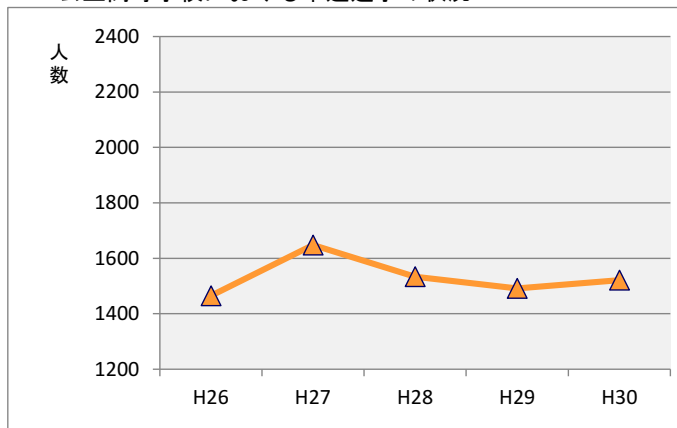
(2) 定時制

区分 分類	分類別生徒数 (a)	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
		いじめ	ぐ友い る人 間関 係を 除め く	題係教 を職 員と るの 間関	学業 の不振	安進 路に 係る 不	不部ク 適活ラ 応動プ 等活動 への	題等学 を校の めぐる ま問り	不学入 適進 応進 級転 時の入		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	92	0	14	0	0	0	28	0	16	0	34
	24.3%	0.0%	15.2%	0.0%	0.0%	0.0%	30.4%	0.0%	17.4%	0.0%	37.0%
「あそび・非行」の傾向がある。	15	0	1	0	0	0	0	0	0	4	10
	4.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.7%	66.7%
「無気力」の傾向がある。	91	0	0	0	5	0	0	2	71	8	6
	24.1%	0.0%	0.0%	0.0%	5.5%	0.0%	0.0%	2.2%	78.0%	8.8%	6.6%
「不安」の傾向がある。	116	0	3	0	2	1	0	0	89	19	3
	30.7%	0.0%	2.6%	0.0%	1.7%	0.9%	0.0%	0.0%	76.7%	16.4%	2.6%
「その他」	64	0	0	0	0	0	0	0	10	8	46
	16.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.6%	12.5%	71.9%
計(b)	378	0	18	0	7	1	28	2	186	39	99
	—	0.0%	4.8%	0.0%	1.9%	0.3%	7.4%	0.5%	49.2%	10.3%	26.2%

【割合の計算例】 中段: $\frac{46}{64} \times 100 = 71.9\%$ 下段: $\frac{46}{99} \times 100 = 46.5\%$

公立高等学校の中途退学

1 公立高等学校における中途退学の状況



<経年変化>
平成27年度以降減少していたが、平成30年度は増加した。

<前年度との比較>
○人数 ~前年度に比べ、30人増加している。
○在籍比~前年度に比べ、0.1ポイント増加している。

【内訳】

全日制	877人（1.0%）	（前年度 820人（0.9%））
定時制	288人（7.4%）	（前年度 321人（8.0%））
通信制	356人（15.4%）	（前年度 350人（12.0%））

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
中途退学者数	1,465	1,648	1,534	1,491	1,521
中途退学率	1.4%	1.6%	1.5%	1.5%	1.6%

2 学年別中途退学者数

	中途退学者数								
	平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比
第1学年	493	2.1%	32.4%	458	1.9%	30.7%	690	2.7%	45.0%
第2学年	299	1.3%	19.7%	320	1.4%	21.5%	320	1.3%	20.9%
第3学年	127	0.6%	8.3%	120	0.5%	8.0%	214	0.8%	14.0%
第4学年	7	1.8%	0.5%	11	2.4%	0.7%	70	6.5%	4.6%
単位制	595	2.1%	39.1%	582	2.0%	39.0%	240	1.0%	15.6%

3 中途退学理由（8項目の主たる理由から選び回答）

順位	中途退学理由					
	平成30年度		平成29年度		平成28年度	
①	学校生活・学業不適応	35.9%	学校生活・学業不適応	34.5%	学校生活・学業不適応	31.6%
②	進路変更	28.3%	進路変更	29.3%	その他の理由	27.3%
③	その他の理由	21.1%	その他の理由	20.5%	進路変更	26.2%
④	病気がけが死亡	4.8%	病気がけが死亡	5.1%	病気がけが死亡	4.7%
⑤	家庭の事情	3.4%	家庭の事情	3.7%	家庭の事情	4.2%
⑥	学業不振	3.1%	問題行動等	3.6%	学業不振	3.4%
⑦	問題行動等	2.9%	学業不振	3.0%	問題行動等	1.9%
⑧	経済的理由	0.6%	経済的理由	0.3%	経済的理由	0.8%

※「その他の理由」とは、理由が不明なもの、理由が複合していて分別不可能なもの